

平成 29 年度 学年 [高 2 学年] 教科 [現代文]

教科・分野	週時間数	クラス	生徒数	担当者
国語	4	A・B（4教科型）	52名	加村佳子
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を的確に読み取る力を身につけます。 ・多様な世界のありさまを知るようにします。また、様々な価値観が生まれ出た背景を学べるようにします。 ・豊かな語彙力を身につけ、その場に応じてその場に応じて使える力を養うようにします。 			
大切に育てたいもの	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	言語事項
	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場所に応じて、的確に話したり、聞いたりすることを意識すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめ、的確に書き表すことを意識すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文章を読み、内容を的確に理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化の中で自国の言語文化に関心と理解を深めること。 ・時代の推移や社会の変化に関心を持ち、豊かな言語感覚を身につけること。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・「身銭」を切るコミュニケーション ・ミロのヴィーナス ・山月記 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容から、筆者の考えを理解させます。 ・「ミロのヴィーナス」に対する筆者の思いを読み取らせます。 ・人物の心情の推移を把握しながら文章を読み取らせます。
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的「発見」とは ・竹 ・永訣の朝 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読み、書き手の意図を的確にとらえさせます。 ・それぞれの形式やリズムに注意して詩歌を読み、そこに描かれた世界を味わわせます。
二学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の美意識 ・情報社会のパラドックス ・こころ 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読み、そこに提示された問題について、自分の意見を表現させます。 ・日本と西洋の美意識の違い、情報社会と人間の関係について考えさせます。 ・小説を読み、登場人物・情景・心情などの描写を的確にとらえて味わわせます。
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・「である」ことと「する」こと ・消費されるスポーツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読み、そこに提示された社会について、的確に理解させます。 ・筆者の提起している問題について理解させ、社会や人間についての考えを広げさせます。
三学期	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・藤野先生 ・環境問題と科学 	<ul style="list-style-type: none"> ・小説を読み、そこに描かれた人間・社会について表現に即して理解させます。 ・時代背景をふまえて小説を読み、人間の生き方について考えを深めさせます。 ・環境と科学の問題について様々な考え方があつたことを知らせます。
評価の方法		・定期テスト、小テスト、提出物などで評価します。	
学習活動の特徴		・講義形式・グループ形式など様々な形態をとります。	
授業の形態		・クラス単位の一斉授業、講義形式が中心です。	
使用教科書		・『精選現代文B』（東京書籍）	
使用副教材		・『頻出漢字マスター3000』尚文出版・『国語総合ガイド』京都書房・問題集	
用意するもの		・教科書、ノート、国語辞典、国語総合ガイド	
備考		・特にありません。	

平成 29 年度 学年 [高 2 学年] 教科 [現代文]

教科・分野	週時間数	クラス	生徒数	担当者
国語	2	B (5教科型)・C・D・E	105名	加村佳子
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を的確に読み取る力を身につけます。 ・多様な世界のありさまを知るようにします。また、様々な価値観が生まれ出た背景を学べるようにします。 ・豊かな語彙力を身につけ、その場に応じてその場に応じて使える力を養うようにします。 ・大学入試対応の実践的国語力を養うようにします。 			
大切に育てたいもの	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	言語事項
	・目的や場所に応じて、的確に話したり、聞いたりすることを意識すること。	・自分の考えをまとめ、的確に書き表すことを意識すること。	・様々な文章を読み、内容を的確に理解しようとする。	・国際化の中で自国の言語文化に関心と理解を深めること。 ・時代の推移や社会の変化に関心を持ち、豊かな言語感覚を身につけること。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「身銭」を切るコミュニケーション ・ ミロのヴィーナス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の内容から、筆者の考えを理解させます。 ・ 「ミロのヴィーナス」に対する筆者の思いを読み取らせませす。
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山月記 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人物の心情の推移を把握しながら文章を読み取らせませす。 ・ 小説の虚構性をとおして、人間とは何かについて考えを深めさせませす。
二学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的「発見」とは ・ 竹 ・ 永訣の朝 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論を読み、そこに提示された問題について、自分の意見を表現させませす。 ・ それぞれの形式やリズムに注意して詩歌を読み、そこに描かれた世界を味わわせませす。
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報社会のパラドックス ・ ころこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評論を読み、そこに提示された社会について、的確に理解させませす。 ・ 小説を読み、登場人物・情景・心情などの描写を的確にとらえて味わわせませす。
三学期	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤野先生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説を読み、そこに描かれた人間・社会について表現に即して理解させませす。 ・ 時代背景をふまえて小説を読み、人間の生き方について考えを深めさせませす。
評価の方法		・ 定期テスト、小テスト、提出物などで評価します。	
学習活動の特徴		・ 講義形式・グループ形式など様々な形態をとります。	
授業の形態		・ クラス単位の一斉授業、講義形式が中心です。	
使用教科書		・ 『精選現代文B』(東京書籍)	
使用副教材		・ 『頻出漢字マスター3000』尚文出版・『国語総合ガイド』京都書房・問題集	
用意するもの		・ 教科書、ノート、国語辞典、国語総合ガイド	
備考		・ 特にありません。	